



2016年8月発行

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

小渋川(大河原-釜沢間)を歩いてみました

2016年7月4日(月)、河本学芸員夫妻と共に、小渋川沿いを、大河原(小渋橋)から釜沢(小河内沢合流地点)まで歩いてみました。そのときの様子を簡単に記します。

小渋橋のあたりは川幅が広く、河床の洗掘を防ぐためのコンクリートの構造物が何段か設置され、小さな落差を作っています(写真1)。しばらくすると、右手(左岸側)上方に鳶が巣の崩壊地が見えてきます(写真2)。沢の出口には、土石流を繰り返してできたと思われる急傾斜の扇状地が形成されています。このあたりは蛇紋岩が分布しており、その脆くて崩れやすい性質のため、崩壊地が目につきます。さらに進むと川岸の両側に緑色岩が分布しはじめ、川幅が狭まったところに上蔵堰堤があります(写真3)。上蔵堰堤は、1954年に完成した堤高23mのアーチ式砂防ダムで、2009年に国有形文化財に登録されています。上蔵堰堤の上部(写真4)に回り込むと、堰堤に堆積した砂礫が広い河原を作っています。この先、川は急峻な緑色岩斜面の間を蛇行して流れていき、途中、リニア中央新幹線の橋の建設予定地を通ります(写真5)。



写真1 鳶が巣の手前の床固工



写真2 鳶が巣の崩壊地



写真3 上蔵堰堤

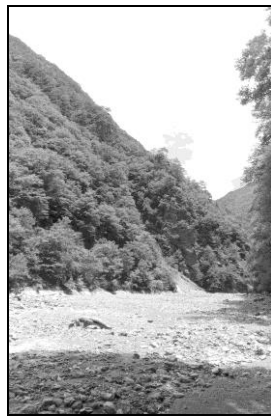


写真4 上蔵堰堤上部



写真5 リニア中央新幹線橋梁予定地付近



写真6 緑色岩の峡谷



写真7 梅村堰堤下



写真8 梅村堰堤上、梅村沢出口付近

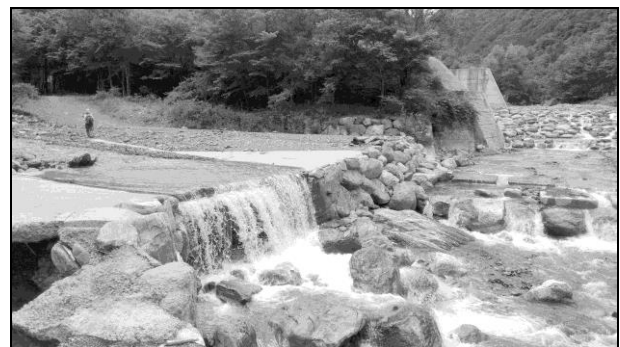


写真9 小河内沢との合流地点

ひなたやすみ

日向休の下あたりまで来ると、急に河床に緑色岩の巨礫がごろごろし始め、河床を歩くのが困難となり、右岸側斜面を回り込みます。川幅がさらに狭まり、緑色岩の峡谷に差しかかると(写真6)、つがむらえんてい梅村堰堤が見えてきます(写真7)。

梅村堰堤の上にとどり着くと、再び大量の砂礫が堆積し、広い河原を作っています(写真8)。このあたりでは、緑色岩は姿を消し、右岸側に蛇紋岩が露出しています。さらに進むと戸台構造線を挟んで秩父帯のちちぶたいチャートや粘板岩ねんばんがんが見られるようになり、小河内沢との合流地点近くでは、河床の洗掘や護岸のためのコンクリートが流路を固めています。(宮崎)